

平成23年度全学共通科目  
「情報探索入門」第13回  
(2012年1月16日)

## 大学での研究・学習と情報源

京都大学附属図書館研究開発室  
准教授 古賀 崇

1

## 本日の内容

- 情報探索・読解のポイント  
– これまでの授業を振り返りつつ
- レポート執筆の手順  
– DVD鑑賞
- 「論文」の読解から執筆まで
- 引用に関する注意点
- 文献探索の方法など、その他の注意点

2

## 情報探索・読解のポイント： イントロダクション

3

## 「何を調べたいのか？」

- 最新の研究成果
- 基礎的な情報・知識
- ことばの定義・用例

4

## 「どんな情報源で、何が調べられる か？」

- CiNii
- KULINE
- JapanKnowledge
- Web of Science / SciVerse Scopus

5

## 「図書」と「論文」の違いの認識を！！

古賀崇. 京都大学附属図書館研究開発室の活動について. 名古屋大学附属図書館研究年報. 2011, no. 9, p. 13-20. (引用はp. 14.)

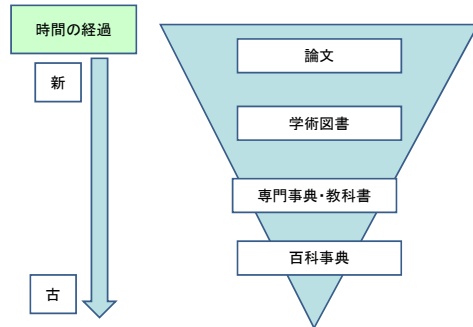
大島幸一郎. 基礎有機化学. 第2版, 東京化学同人, 2010, p. 25.

Sen, Amartya. The Argumentative Indian: Writings on Indian History, Culture and Identity. Farrar, Straus and Giroux, 2005, 432p.

Sen, Amartya. The economics of life and death. Scientific American. 1993, vol. 268, no. 5, p. 40-47.

6

「知識」は一定の方向へ収まっていく  
 (「新説」による急変化もあるが)



7

## レポート執筆の手順

DVD鑑賞:  
 情報の達人 第3巻  
 「レポート・論文を書こう! 誰にでも書ける10  
 のステップ」(2007)より  
 (附属図書館、人環・総人図書館に所蔵)

8

### DVDに示された10のステップ

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| (1)テーマの選択            | (6)文献の読解と整理         |
| (2)事前調査              | (7)最終 <b>アウトライン</b> |
| (3)仮 <b>アウトライン</b> 作 | 作成                  |
| 成                    | (8)執筆・校正            |
| (4)関連文献の調査           | (9)出典の表示            |
| (5)文献の入手             | ※後で詳述               |
|                      | (10)仕上げ             |

9

### 「(6)文献の読解と整理」のポイント

- 文献が書かれた目的は?
- 扱っている対象は?
- データ・文献は適切か? 情報源は確かか?
- データ・文献の分析の仕方は適切か?
- 事実と意見が区別されているか?
- 結論・主張は何か?
- 目的と考察(分析)と結果(主張)は一貫しているか?
- どんな理論を用いているか?
- 筆者はどんな点に関心を寄せているか?
- 倫理的・法的な問題はないか?

10

### 「(8)執筆・校正」のポイント

- 文体は書き言葉(である調)
- 表現はわかりやすく
- 一般用語と専門用語を区別
  - 専門用語は定義を示しておく
- **同一概念は同一用語**で

11

### 「論文」の読解から執筆まで

DVDからさらに進んで...

12

## レポート・論文・調査報告書に必要な要素

- (1) 問いを立てる
- (2) 問いに何らかの答えを出す
- (3) (2)の根拠を示す

### 文章の構成として

- ・序論 (1)
- ・本論 (3)
- ・結論 (2)

★「事実」と「意見」を区別する  
「自分の意見」と「他人の意見」を区別する

13

## 論文の型・構造:大きくは3つのパート

「〇〇〇に関する研究」  
古賀 崇  
【要旨】〇〇〇〇〇〇.....

書誌事項  
(カタログ情報)

・はじめに  
・研究関心  
・研究手法  
・結果  
・考察  
・おわりに

序論

本論

結論

本文  
(本体)

【注・引用文献】

1)  
2)  
...

根拠・追加情報

14

## カタログ情報

- ・ タイトル
  - 本文の内容を過不足なく記す
- ・ 著者名・所属
  - 複数の著者名が並ぶ場合も
- ・ 論文の概要(抄録)
  - 論文の内容を「凝縮」
  - 例: 日本語400字以内、英語200語以内
- ・ キーワード
  - 内容をさらに「凝縮」
  - 例: 日・英それぞれ5個程度

15

## 序論(典型的な構成例)

- ・ 研究関心 または 研究背景
- ・ 研究課題の設定 「問い」「仮説」
- ・ 先行研究の流れ
- ・ 仮説とその「解き方」の大まかな方針・戦略
- ・ この後の本文の概要

16

## 本論(1): 研究手法

- ・ 大まかには4つ
  - どのような手法を使うか、なぜそうするか



実験



読解



調査



事例研究

17

## 本論(2): 結果

- ・ 選択した方法に即して、どんなデータが得られたか
- ・ 図や表・グラフ等でまとめるのが有効な場合も
- ・ 例
  - 実験を行って...
  - 特定の資料・文献を探索・解読してみた...
  - アンケート調査をやってみて...
  - ある治療法やカウンセリングを行ってみて...

18

### 本論(3): 考察

- 得られたデータを、当初の「問い」に照らし合わせて解釈する
  - 当初考えた通りの「仮説」通りに解けたか
  - そうなった／そうでなかったのはどうしてか
- **[これは絶対にダメ!!]** 結果を都合よく解釈できるようにデータを改ざん・ねつ造すること

19

### 結論

- 論文のポイントを再度、簡潔にまとめる
- この論文で十分解明できなかったこと、さらなる課題として見出したことも記述する

20

### 根拠・追加情報

- 引用文献: 文章の一部につき「引用」を行った文献
- 参照(参考)文献: 必ずしも引用を行っていないが、根拠となる記述などを記した文献
  - これらは厳密には区別されないことがある
  - 引用・参照文献をまとめて「参考文献」と呼ぶ場合も
- 注: 本文に入れるほどではないが補足的な記述を行う
- 付録: 「アンケートの調査票」など

21

### 論文の読み方

- 「抄録」で概要をつかむ
- 先に「論文の構造」をひと通り押さえる
  - もくじ、大見出し・小見出し、図表などから
- 「事実」と「他人の意見」と「著者の意見」を見分ける
- 主張・要点を把握する → 「1~2つの文章」や「キーワード」で表現できるように
- 【裏技】「引用・参考文献」のリストにも先に目を通す
  - 論文の背景・文脈、先行研究の概要などが分かる
  - 「いもづる法の文献探索」(後述)につながる

22

### 引用に関する注意点

23

### なぜ「引用(参照)」が大切なのか

- 自分の発言の根拠を明記する
  - 今までの見解に反論する場合でも、「反論対象」の文献を明記する
- 自分の意見と他人の意見とを区別する
  - そうしないと「盗作(パクリ)」と見なされる!
- 研究方法についても、引用・参照が求められる場合あり

24

## 「引用」のルールやポイント

### ・「自分の文章」と「引用部分」の主従関係

す。そもそもガバナンスとは、日本では以下のように理解されています<sup>25)</sup>。

公共サービスの提供主体が、政府・自治体だけでなく、企業やNPOなどの民間・市民セクターに広がっていることを背景に、政府活動の社会的次元に注目したコンセプト。「統治」「共治」などと訳すが、企業や国際社会も含め、管理運営システム全般をさすことも多い。

ここでは、グローバリゼーションなどを背景とし、従来の「ガバメント」の枠を超えた「ガバナンス」の

### ・引用部分の明確化、被引用文献(出典)の明示

－「」や“”でくくる

－長い文章の引用は「段下げ」(インデント)

出典：古賀崇. レコードキーピングをめぐる考察：マケミッシュ、クックの論考をもとに、レコード・マネジメント. 2007, no. 53, p. 89-107.

25

## 本文との関連づけ(1): 引用・参照順方式

筆者の前稿と重なる点も多いが<sup>26)</sup>、まずFDLPの概要と現状をまとめてみたい。

FDLPは連邦議会の傘下にある政府印刷局(Government Printing Office: GPO)が連邦政

### 参考文献

3) 古賀崇. “アメリカの公共図書館における政府情報アクセス：電子政府の進展の中での現状と課題”. 変革の時代の公共図書館：そのあり方と展望. 日本図書館情報学会研究委員会編. 勉誠出版, 2008, p. 175-181, (シリーズ図書館情報学のフロンティア, No. 8).

出典：古賀崇. 米国の公共図書館における政府情報・電子政府関連サービスの実情：公共図書館の価値への期待と政府業務の縮小とはざまで. 現代の図書館. 2009, vol. 47, no. 3, p. 180-187.

26

## 本文との関連づけ(2): 著者名・発行年方式

さて、市民社会形成に関わる新中間層以外の担い手を構想する議論もある。オルタナティブな発展論が現地の知識人や宗教者、NGO関係者から出され、先進国の研究者も共感を示した<sup>27)</sup>(西川編,2001; 西川・野田編,2001; 駒井,2001)。社会開発論は国際援助機関から

### 参考文献

西井涼子,2001,『死をめぐる実践宗教』世界思想社。

西川潤編,2001,『アジアの内発的発展』藤原書店。

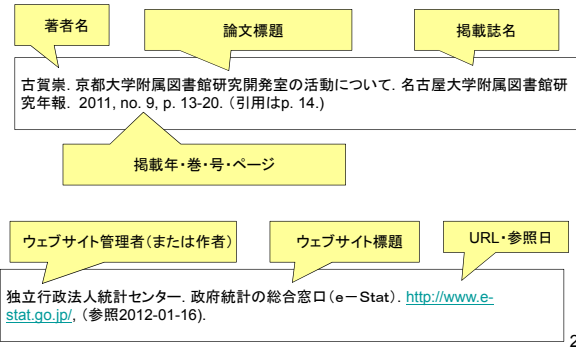
西川潤・野田真理編,2001,『仏教・開発・NGO—タイ開発僧に学ぶ共生の智慧』新評論。

日本村落社会学会編,2004,『東アジア農村の兼業化—その持続性への展望』農文協。

出典：櫻井義秀. 分野別研究動向(東南アジア)グローバリゼーションと地域社会変動. 社会学評論. 2008, vol. 57, no. 1, p. 204-217.

27

## 書誌事項をどう書くか: 詳しくは来週の総合演習で...



28

## 文献探索の方法

### 索引法(DB利用を含む)

いもづる法

ブラウジング法

+

その他の注意点

29

## 索引法(DB利用を含む)

- ・記事索引・書誌などの情報源や、それに相当するDB(OPAC=KULINE、CiNiiなど)を用いて、文献を探すこと
- ・「どの情報源/DBで、何を調べられるか」の確認が必要
- ・テーマや対象を絞り込んだ情報源/DBが有益な場合も

30

## いもづる法

図書・論文などの  
文献＝  
ひとつのストーリー

引用・参照文献

・ストーリー(文脈)に沿った  
文献の発見につながる  
・「偏り」「見落とし」のリスクも  
ある  
→DB検索などとの併用を

文献A

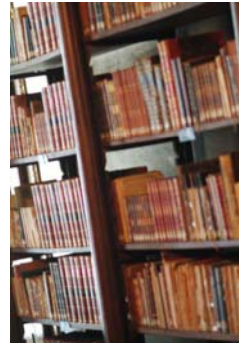
文献B

文献C

31

## ブラウジング法

- 書棚や書誌・文献リストから「偶然の出会い」を求める
- 書棚などでの「一定の配列」が前提
  - 図書館での「十進分類法」
  - 書店での「販売のための配列」 など
- 「偶然の出会い」のメリット・デメリット



32

## インターネット上の情報源： 信頼性を判断する基準

- (1)内容に責任をもつ人物・団体が明記されていること
- (2)サイトの構築時期や更新時期が明記されていること。また、内容ができるだけ頻繁に更新されていることが明記されていること
- (3)サイトの目的や使い方などが明記されていること
- (4)Yahoo!などの大手サイトや、図書・論文などによる客観的な評価・推薦・参照があること
- (5)内容の信頼性が保証されていること
  - 例：誤字・脱字がないか 引用・参照文献はあるか

33